

令和2年 日田市観光動態調査報告書

令和4年2月3日

一般社団法人日田市観光協会

1 調査概略

この調査は、令和2年（1月～12月）の市内の主要な宿泊施設（37施設）の宿泊者数及び、主要観光施設（43施設）の来館者数、イベント・祭り来場者数および地域経済分析システム「RESAS」を用いて調査したもの。

- ・令和2年の宿泊客数は222,804人で、令和元年と比べ51.5%減少した
- ・令和2年の国内宿泊者数は211,480人で、令和元年と比べ39.7%減少した。
また、国内宿泊客の構成を発地別に見ると、福岡県からの宿泊客が最も多く（構成比40.1%）、次いでその他九州（県内・福岡県除く）（構成比16.0%）、大分県内（14.5%）となった。
- ・令和2年外国人宿泊客数は11,324人で、令和元年と比べ89.6%減少した。
- ・令和2年の日帰り観光客推計値は1,670,040人で、令和元年と比べ37.4%減少した。

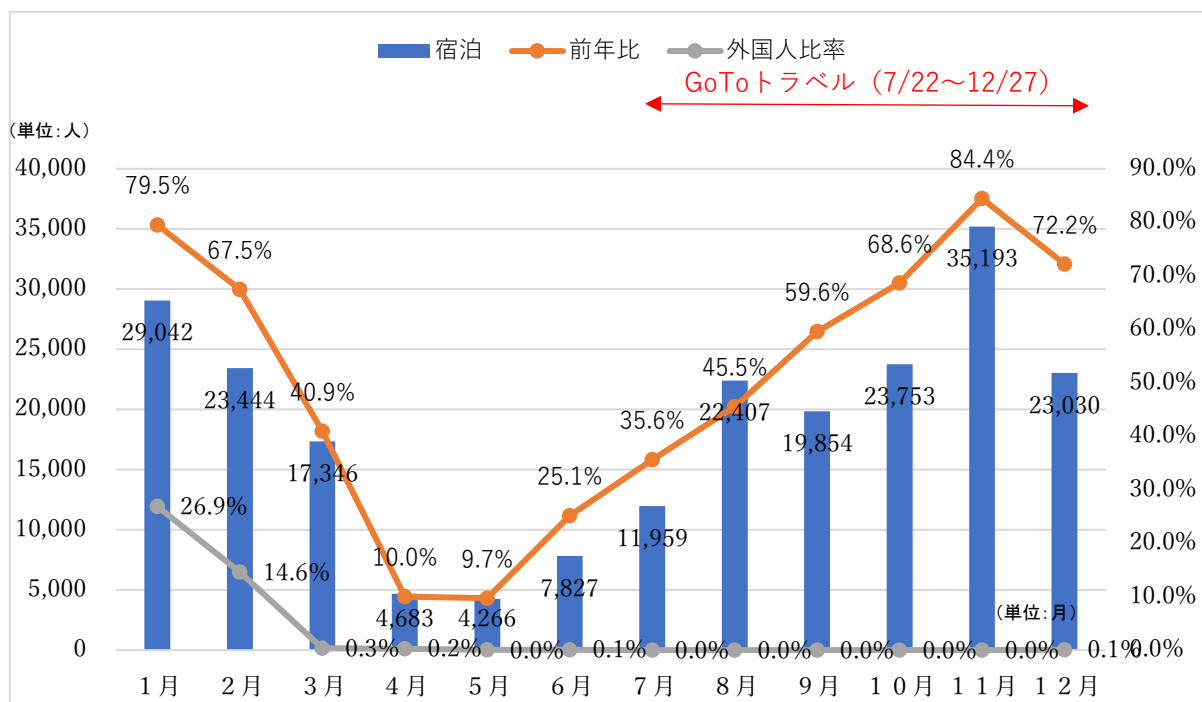
市内宿泊客の動向

令和2年の市内における宿泊客数は、令和元年と比べ51.5%減少した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に減少したことが考えられる。

国内観光客については、「GoToトラベルキャンペーン」の実施により一時期回復傾向はみられた。

【図表1】令和2年月別宿泊数



2 国内宿泊客数の動向

令和2年の国内宿泊客数は、令和元年と比べ39.7%減少した。【図表2】

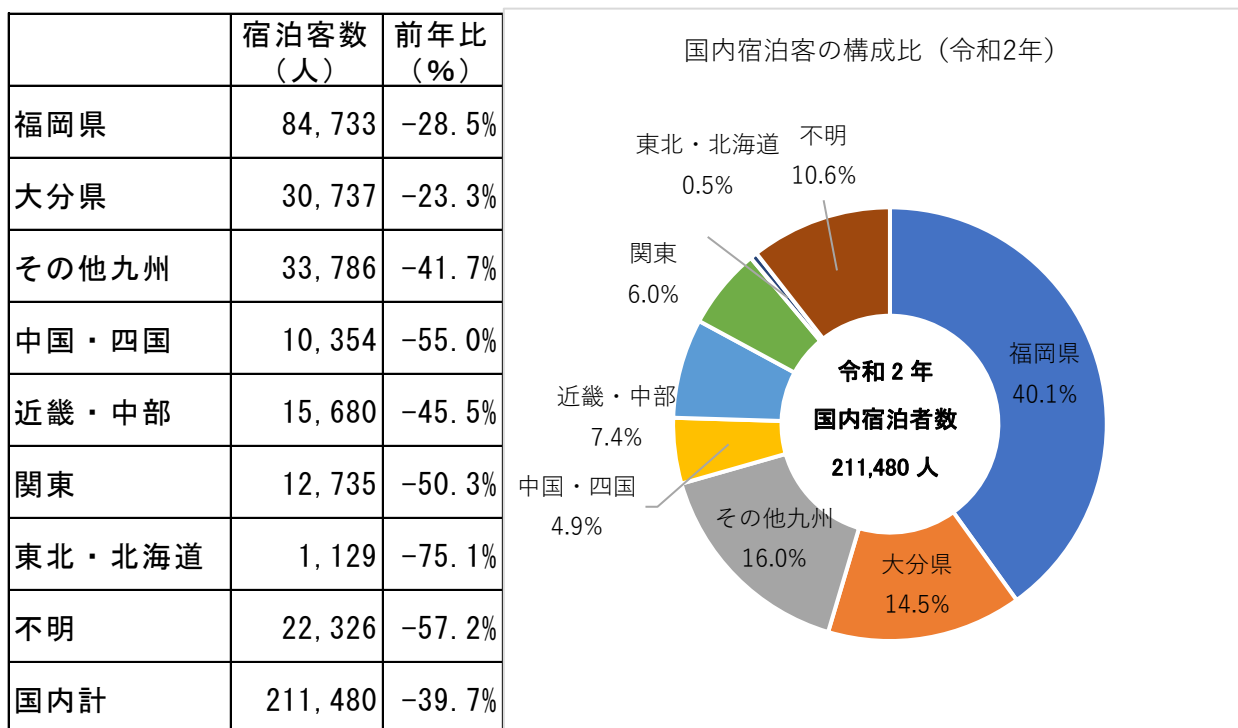
月別に見ると1月、8月を除き、前年を大きく上回った。【図表3】

発地別に見ると、福岡県からの宿泊客数が最も多く40.1%を占め、次いでその他九州・沖縄が16.0%、大分県内が14.5%の順となっており、近隣からの宿泊客が約7割以上を占める状況である。【図表2】

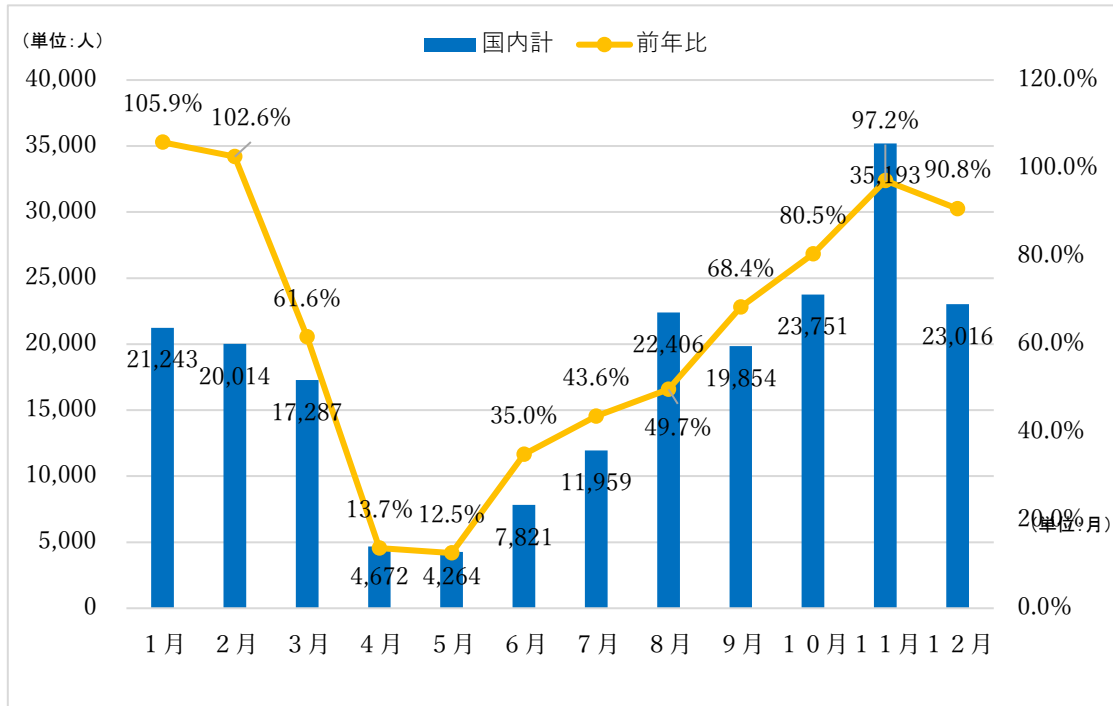
発地別宿泊客数の対前年比を見ると福岡県、その他九州・沖縄、大分県内、東北・北海道、関東、近畿・中部、中国・四国の全てで前年を下回った。【図表2】

地区別宿泊客数は、旧日田市や天瀬町ではイベントが開催される3月、5月、11月期の宿泊客が多く、2月、6月、9月は宿泊客数が低い傾向である。また、奥日田（大山町・前津江町、中津江村、上津江町）では、4月、8月の宿泊客が多く、12月、1月、2月の冬季は宿泊客が低い傾向となっている。奥日田は比較的標高の高い自然豊かなエリアであり、春季～秋季にかけての宿泊は多く、梅雨期や積雪のある冬季の宿泊は少ないと考えられる。【図表4】

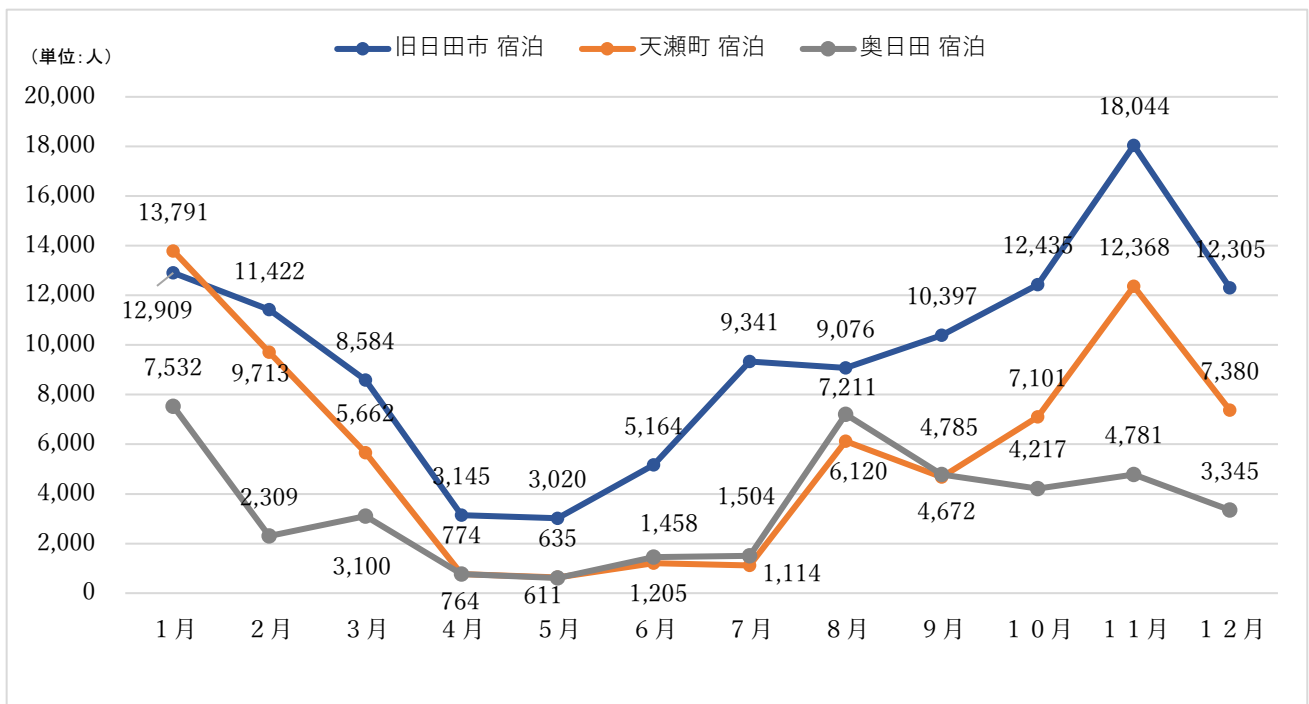
【図表2】国内発地別宿泊客数及び構成比



【图表 3】令和 2 年国内宿泊客数



【图表 4】令和 2 年地区別宿泊客数



3 外国人宿泊客数の動向

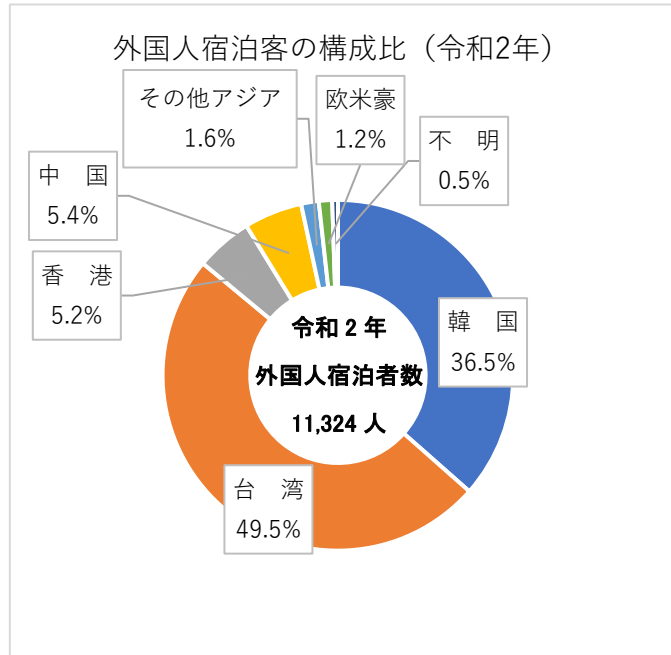
令和2年の外国人宿泊客数は、令和元年と比べ△89.6%減少した。【図表5】

月別推移を見るとすべての月で前年を下回った。【図表6】

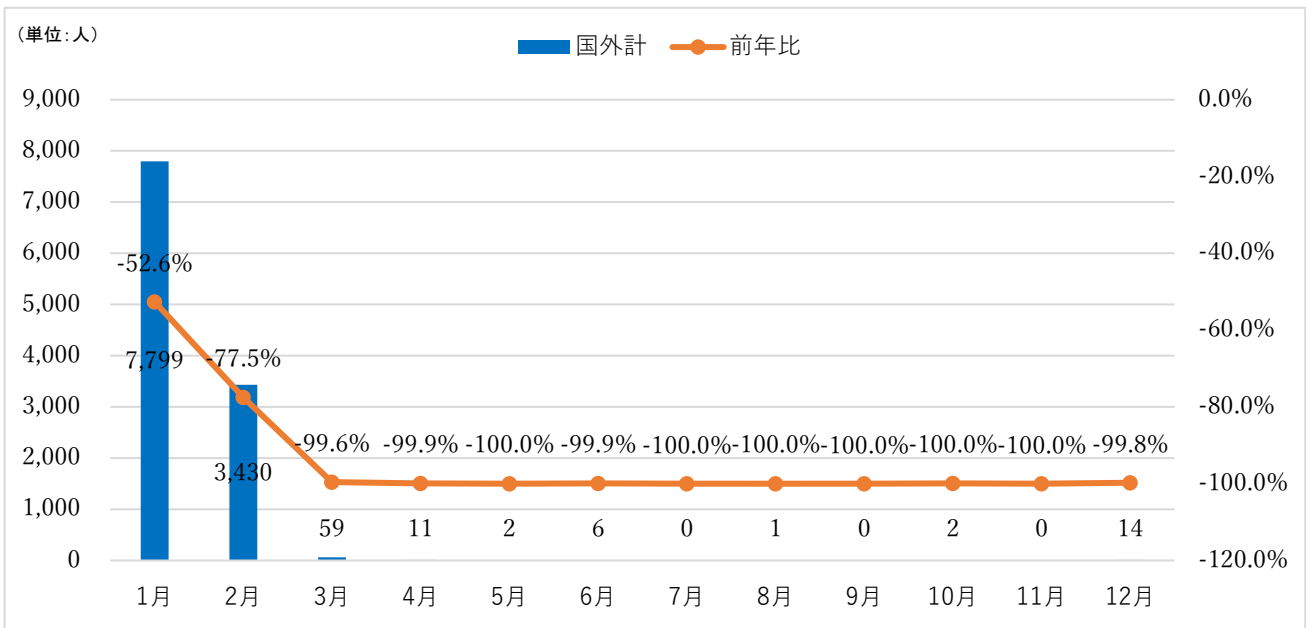
外国人宿泊客の国籍・地域別構成比を見ると、台湾からの宿泊客が最も多く、外国人宿泊客全体の49.5%を占める。次いで韓国、中国の順となっており、香港、タイ・マレーシア等のその他アジアを含めたアジア圏で約9割以上を占めている。【図表5】

【図表5】外国人発地別宿泊客数及び構成比

	宿泊客数(人)	前年比(%)
韓国	4,135	-93.9%
台湾	5,605	-79.7%
香港	594	-82.4%
中国	608	-84.6%
その他アジア	184	-92.9%
欧米豪	139	-91.1%
不明	59	-97.0%
国外計	11,324	-89.6%



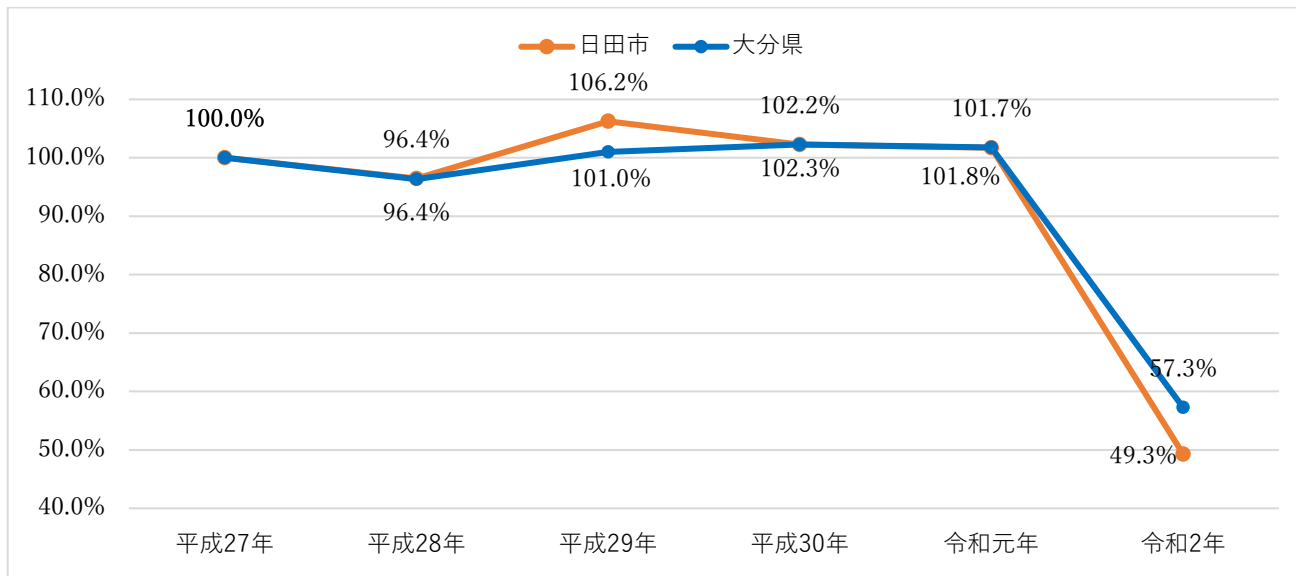
【図表6】令和2年外国人宿泊客数



4 宿泊客の増減

本市と大分県の宿泊客の増減率（平成27年から令和2年の6年間）を見ると、熊本地震の影響で平成28年の宿泊客数が著しく減少した。その後の災害からの復興キャンペーンやインバウンド対策により平成29年は急増した。【図表7】

【図表7】日田市・大分県の宿泊客の推移（宿泊客数の増減(平成27年比)）

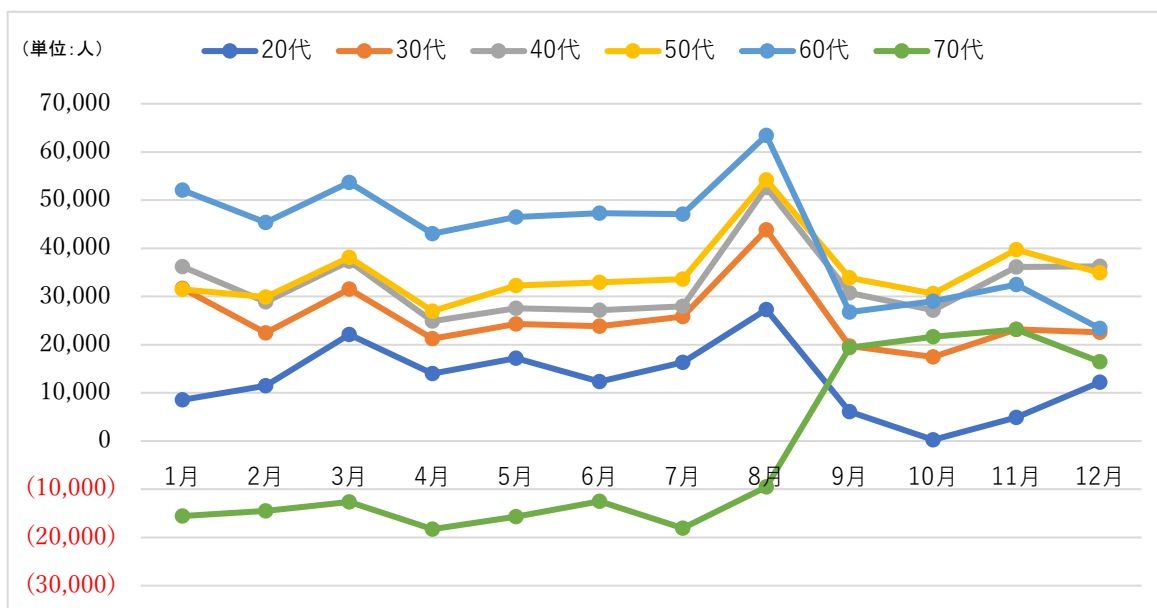


5 日帰り観光客の動向

令和2年の本市のRESASによる日帰り観光客（昼間人口－夜間人口）は、全年代ともに8月が多く、1月、3月も多くなる傾向がある。【図表8】 ※RESASによる

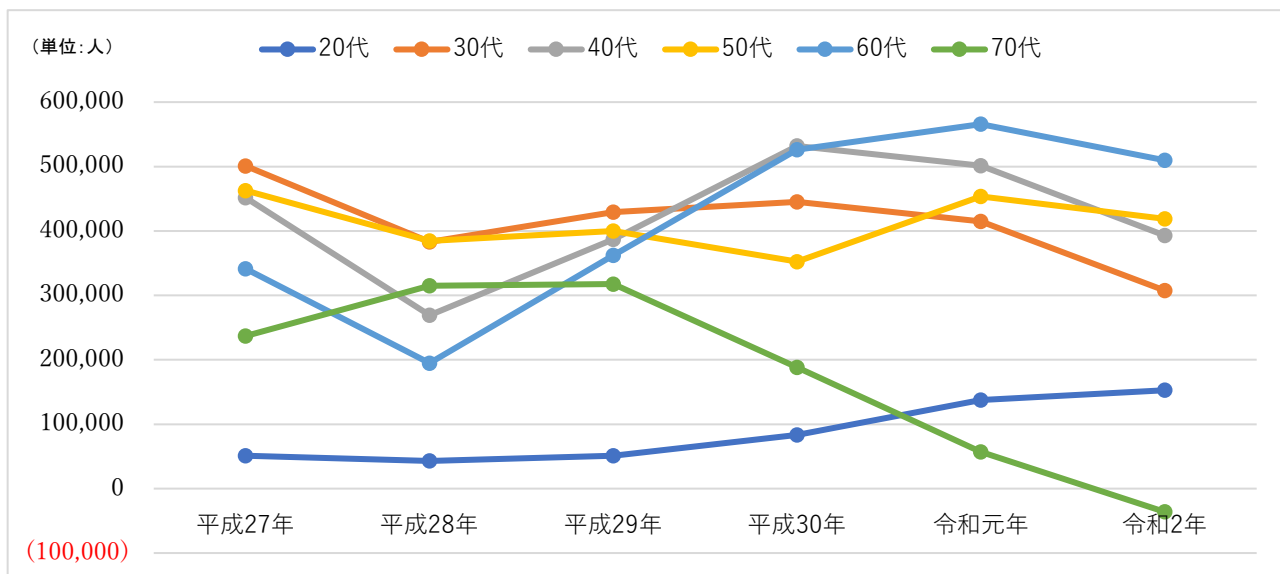
平成28年に各世代とも大きく落ち込んだが、20代～60代にかけては持ち直しが見られる。70代については減少傾向が続いている。【図表9】

【図表8】令和2年日帰り観光客数（昼間人口－夜間人口）の推移（RESASより集計）



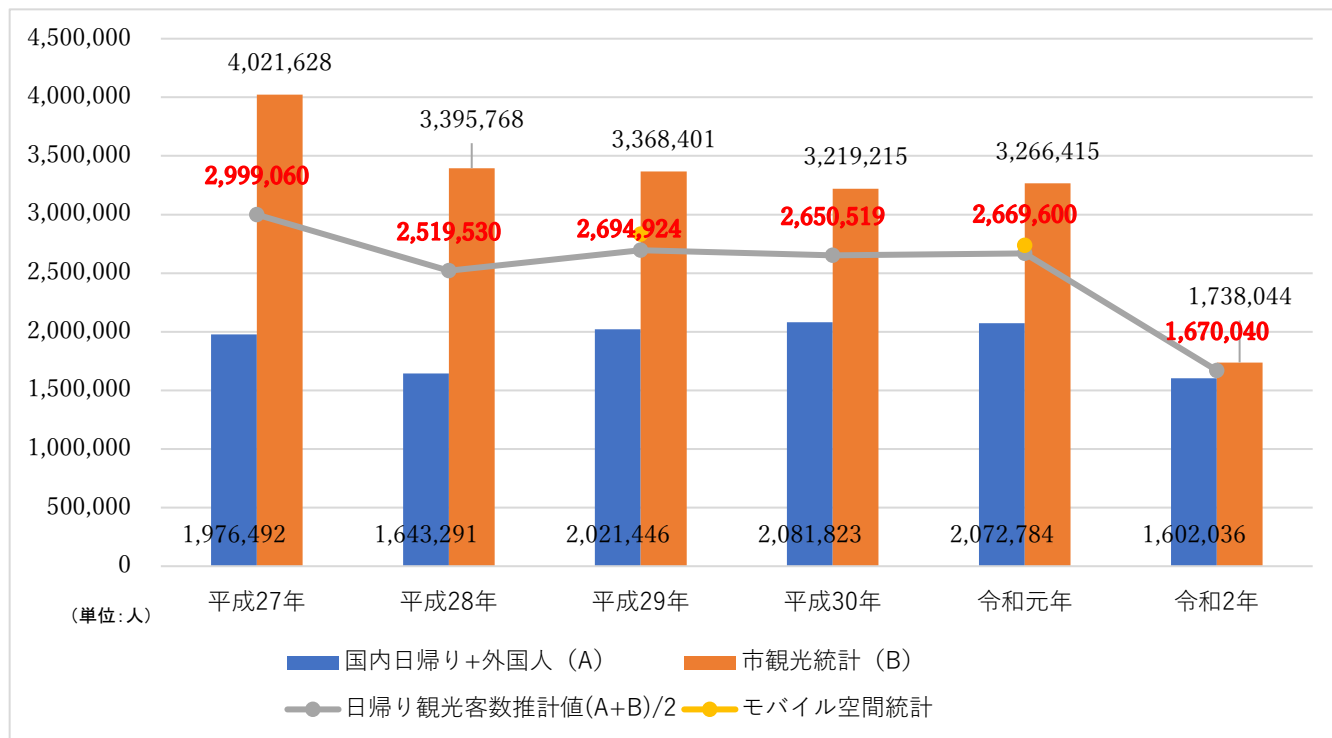
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
20代	8,537	11,493	22,080	14,001	17,208	12,344	16,306	27,293	6,070	256	4,914	12,213
30代	31,647	22,429	31,536	21,246	24,311	23,848	25,797	43,848	19,690	17,448	23,177	22,580
40代	36,162	28,882	37,329	24,879	27,545	27,174	27,942	52,608	30,740	27,171	36,144	36,265
50代	31,488	29,880	38,095	26,979	32,288	32,930	33,594	54,191	33,850	30,631	39,736	34,930
60代	52,035	45,332	53,666	43,038	46,475	47,262	47,069	63,432	26,770	29,036	32,501	23,354
70代	-15,537	-14,502	-12,609	-18,279	-15,675	-12,488	-18,090	-9,517	19,370	21,625	23,144	16,463

【図表 9】日帰り観光客数（昼間人口－夜間人口）の年推移（RESAS より集計）



(単位:人)	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
20代	50,897	42,956	51,306	83,201	137,539	152,715
30代	500,934	382,855	429,103	444,987	414,715	307,557
40代	451,651	269,192	386,847	531,883	501,317	392,841
50代	462,741	384,408	400,063	352,424	453,533	418,592
60代	341,203	194,873	362,092	525,940	565,776	509,970
70代	236,934	314,754	317,589	188,257	56,842	-36,095
合計	2,044,360	1,589,038	1,947,000	2,126,692	2,129,722	1,745,580

【図表 10】 日帰り観光客数の推計値（日田市観光統計と R E S A S 滞在人口の平均値）



日田市の日帰り観光客の推計値（単位：人）

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
国内日帰り+外国人 (A)	1,976,492	1,643,291	2,021,446	2,081,823	2,072,784	1,602,036
市観光統計 (B)	4,021,628	3,395,768	3,368,401	3,219,215	3,266,415	1,738,044
日帰り観光客数推計値 (A+B)/2	2,999,060	2,519,530	2,694,924	2,650,519	2,669,600	1,670,040

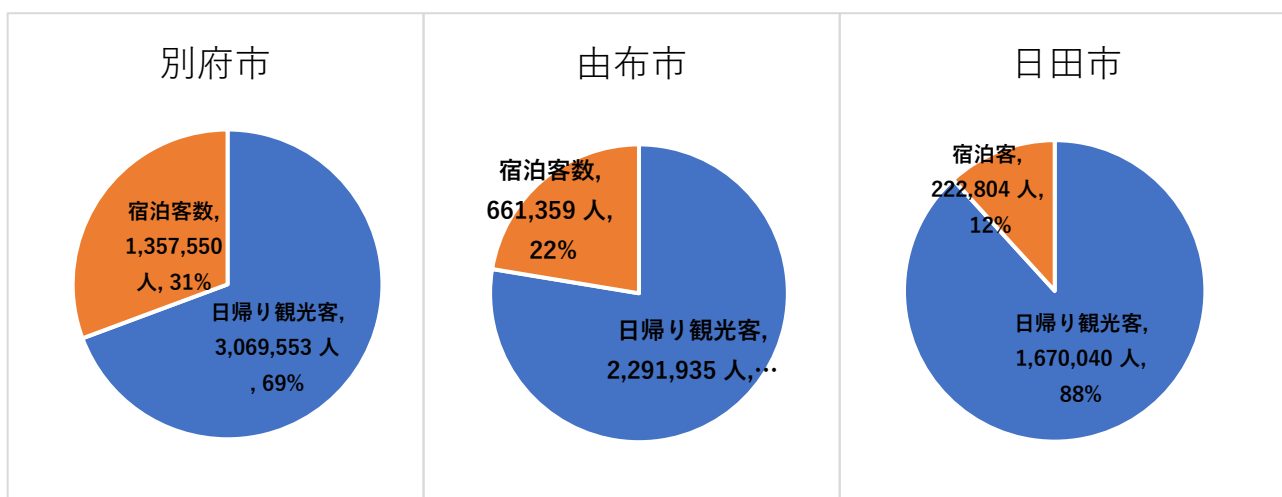
6 宿泊客と日帰り観光客の割合

本市の観光入込客の10～15%が宿泊客であり、周辺観光地と比較すると宿泊観光客の割合が少なく、県内宿泊を目的とした立ち寄り地となっている状況である。宿泊率向上につなげる観光施策が必要と考えられる。【図表11】【図表12】

【図表11】 宿泊客と日帰り観光客の割合

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
日帰り観光客数推計値	2,999,060	2,519,530	2,694,924	2,650,519	2,669,600	1,670,040
宿泊客数	451,938	435,814	480,172	462,075	459,812	222,804
宿泊率	13.1%	14.7%	15.1%	14.8%	14.7%	11.8%

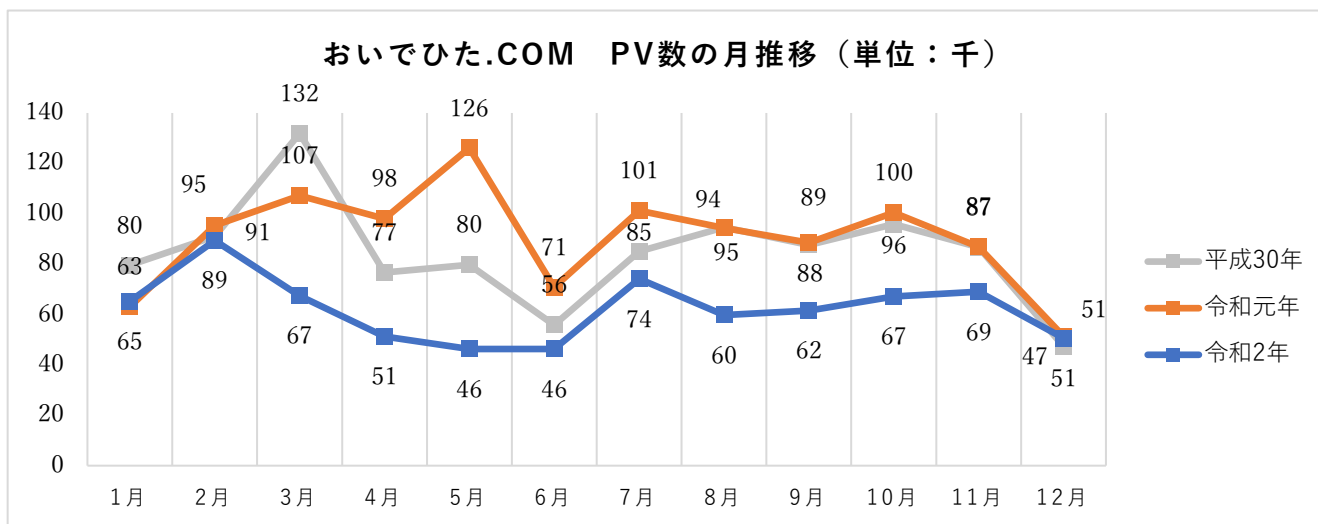
【図表12】 他自治体との観光入込客の比較（令和2年）



7 日田市観光協会ホームページのアクセス状況

夏以降、「GoTo トラベルキャンペーン」に合わせ7月に上昇傾向をみせたが、令和2年7月豪雨や相次ぐお祭り・イベントの中止に伴い伸び悩んだ。【図表13】

【図表13】 ページビュー（PV）数の推移



8 観光消費額と経済波及効果

1) 観光消費額（推計）

令和2年の観光消費額：176億6,480万円

令和元年の旅中アンケート調査から得られた1人当たり観光消費額から算出した令和2年の観光消費額は176億6,480万円となった。

①令和元年 旅中アンケート調査結果（2019年）から推計する1人当たりの観光消費額及び大分県観光実態調査報告書からみる大分県内での1人当たり観光消費額

	日田市内	大分県内
日帰り旅行	7,081円	5,998円
宿泊旅行	26,208円	41,664円

②日帰り観光客推計値及び市内宿泊客数から算出する観光消費額

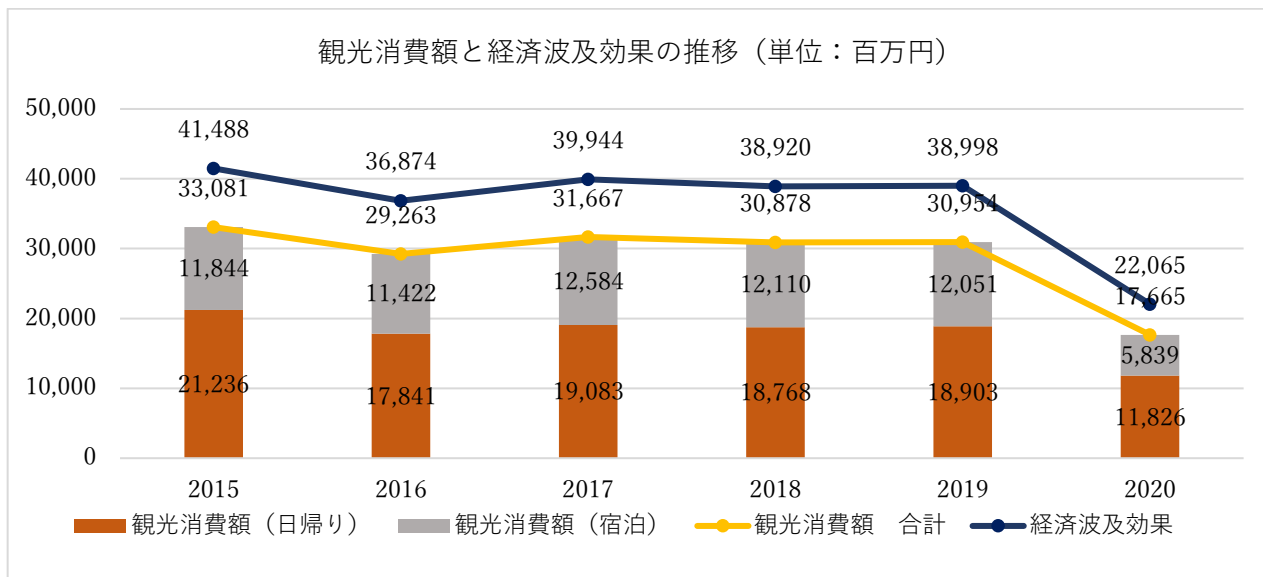
令和2年	入込客数	観光消費額（推計）
日帰り観光客	1,670,040人	118億2,555万円
宿泊観光客	222,804人	58億3,924万円
（合計）	1,892,844人	176億6,480万円

※日田市の観光消費額を算出する上での観光入込客数は、日帰り観光客は、日田市観光統計とRESAS滞在人口の平均値、宿泊客数は日田市観光統計の数値を使用する。

2) 令和2年の経済波及効果（生産誘発額）

令和2年総合効果：220億6,500万円

観光消費額、経済波及効果ともに、前年比43%減。また、経済波及効果については、令和2年で222億円となった。【図表14】



※平成23年（2011年）「大分県産業連関表 経済波及効果分析ツール 与件データ作成ツール」を使用し、一人当たり観光消費額は令和元年の旅中調査結果の（日帰り旅行7,081円、宿泊旅行26,208円）を使用し算定した。